

第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画 進捗管理・評価一覧表(令和2年度事業)

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
基本目標1 地域で支えあう取り組みを推進します										
施策1 地域でのふれあい、支えあいをすすめます										
主な取り組み 01)ふれあい活動・支えあい活動に対する支援										
1	地域の交流イベント等への参加への支援	障がい福祉課	福祉健康フェア入場者数	28 29 30 元 2	2,300 1,900 2,100 2,100 0	人	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、福祉健康フェアは中止となった。 ②特記事項なし。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①福祉健康フェアの参加者に、どのようにして若い世代を取り入れていくか検討する必要がある。 ②福祉健康フェアのあり方や行政と市民の協働などについて、福祉健康フェア実行委員会において検討している。	B継続
2	老人クラブへの支援	高齢者支援課	会員数	28 29 30 元 2	1,482 1,493 1,430 1,392 1,232	人	①新型コロナウイルスの影響によりすべての事業が中止となったが、各事業を円滑に推進するため部会事業実施細則を策定した。 ②各部会主催事業の円滑な実施に係る会員相互の役割分担等が明確になった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①会員全体の年齢が高齢化している。 今後の取組として、市老連の事業及び各単位クラブの紹介などを掲載する会報誌を発行する。 ②おおむね60歳以上について各年代の社会参加意識を広め、老人クラブで活動することへの関心を持ってもらう。	B継続
3	ふれあいサービス事業	社会福祉協議会	会員数	28 29 30 元 2	101 105 110 105 68	人	①コロナ禍による緊急事態宣言等に伴い、事業の休止及び自粛をしつつも、会員相互の感染症対策を講じながら、ふれあいサービス事業を実施した。 また、担い手確保を目的に協力会員募集のチラシを作成した。 (感染症対策としてマスク・消毒液等を配布、『感染予防に配慮した活動』の資料を作成・配布、協力会員研修会を年4回実施。) ②作成した協力会員募集のチラシを見て、協力会員の登録のみならず、利用についての問い合わせもあり、市民への周知に繋がった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①コロナ禍での活動のため、感染予防に配慮した活動を継続し実施していく。 また、今後も継続して担い手の確保に努める。 ②市の方針を踏まえながら、研修会を実施していく。 また、市関係機関の協力により、ふれあいサービスの研修の充実を図っていきたい。	B継続
4	福祉の学習機会の推進	障がい福祉課	実施回数	28 29 30 元 2	2 1 0 1 0	回	①新型コロナウイルス感染症の影響により、福祉学習の実施はなかった。 ②特記事項なし。	D実施方法も含め改善が必要である	(R3年度) ①今後、実施していくべきかを含めて検討が必要。 ②特記事項なし。	D廃止
	福祉の学習機会の推進	高齢者支援課	開催回数	28 29 30 元 2	23 22 22 25 5	回	①認知症サポーター養成講座を実施した。 ②コロナ禍により開催回数は減ってしまったが、市民向け講座を3回、薬局向け講座を1回、小学校向け講座を1回実施し、認知症に関する理解が深まった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めながら、開催回数の増加を目指す。 ②多くの小中学校や地域、企業で講座開催について検討してほしい。	B継続
	福祉の学習機会の推進	社会福祉協議会	参加人数	28 29 30 元 2	846 529 494 437 250	人	①コロナ禍による緊急事態宣言など感染症対策の実施により、活動自粛や制限等がある中で、ボランティアの協力を得て地域・団体等で防災講座を開催した。 ②社協ふれあい協力会員研修会15名、社協在宅介護者のつどい10名、南初富連合自治会防災訓練225名の参加があった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①引き続き感染予防に努め、感染症等衛生面に配慮した内容を盛り込み、今後も継続する。 ②専門性を要する場合は、市関係機関の協力により講座の充実を図っていきたい。	B継続
5	地域支えあいの促進	障がい福祉課	開催回数	28 29 30 元 2	3 5 3 3 6	回	①障がい者計画・障がい福祉計画の策定作業を行った。 ②障がい者計画・障がい福祉計画の策定年であったため6回の会議を開催した(うち3回が感染症対策のため書面会議となった)。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①課題を話し合うテーマ別チームの活動が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和2年度ほとんど実施することができなかった。コロナ禍でも歩みを止めることができないような体制として、参集型とオンライン型の併用会議の実施を目指していく。 ②既にチームメンバーなど多くの市民の方に協力いただいている。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 02)市民との協働による地域福祉活動の支援										
6	地区ふれあい員制度	市民活動推進課	地区ふれあい員委嘱数	28 29 30 元 2	474 485 480 480 467	人	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、市の後援での地区ふれあい員のつどいを開催は見合わせ、その代替として、各地域における研修活動の実施を促した。 ②避難行動要支援者の支援など、市と自治会連合協議会が協働で取り組んでいる事業について、理解を深める機会となった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①コロナ禍に対応した地域活動の手法について研究する必要がある。 ②地区ふれあい員による見守り活動の強化をお願いしたい。	B継続
7	自治会加入促進対策の実施	市民活動推進課	PRチラシ配布数	28 29 30 元 2	6,000 6,000 8,000 6,000 6,000	枚	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、毎年2月に実施している加入促進月間は見合わせたが、鎌ヶ谷市自治会連合協議会と協働でPRチラシの配布や加入促進活動に取り組んだ。 ②分譲地での加入など、加入増につながった地域がみられた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①引き続き、市と自治会連合協議会とで加入促進に取り組む。 また、自治会役員の高齢化や単身世帯を中心とした未加入者の増加といった課題についても取り組んでいく。 ②加入促進チラシの配布をお願いしたい。	B継続
8	健康づくり・体操の会への支援	健康増進課	健康教育実施延数	28 29 30 元 2	33,396 39,948 38,201 36,199 17,101	人	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した事業が多かったが、コロナ禍での実施方法を検討し健康教育を実施。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、コロナ禍での新しい生活様式に合わせた健康教育を行い、市民の健康づくりや介護予防へとつながった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①令和3年3月策定した、「第3次いきいきプラン健康かまがや21」に基づき、歯周病検診の周知、朝ご飯を摂る事、高血圧、糖尿病予防、若い世代を対象とした教育を重点項目として実施していく。 ②市民や地域の集まりの際に、健康づくりに関する内容をプログラムに取り入れていただきたい。	B継続
主な取り組み 03)乳幼児、児童から高齢者まで見守る体制の充実										
9	緊急通報システム事業	高齢者支援課	利用者数	28 29 30 元 2	42 41 42 37 38	人	①昨年度と同様に事業を実施した。 ②機器の設置により、心疾患などの持病がある高齢者や一人暮らしの高齢者の在宅生活の見守りに役立った。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①近隣に住む方に、緊急対応時に消防・業者と連絡を受けてもらう協力員となってもらうが、その協力を求めることが困難な場合がある。 ②地域での協力体制づくりをお願いしたい。	B継続
10	徘徊高齢者位置情報提供サービス事業	高齢者支援課	利用者数	28 29 30 元 2	9 8 11 15 20	人	①昨年度と同様に事業を実施した。 ②徘徊癖のある高齢者に位置検索機を貸し出し、介護者の負担を軽減させることにつながった。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①徘徊癖のある高齢者が端末機を身につけていないと効果がない。 ②地域での見守りをお願いしたい。	B継続
11	ひとり暮らし老人等給食サービス事業	高齢者支援課	利用者数	28 29 30 元 2	51 42 50 39 42	人	①昨年度と同様に事業を実施した。 ②給食の配達をすることにより、利用者の安否確認や食事の提供に役立った。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①利用者が外出の予定がある場合に、給食配達業者への連絡を忘れることがある。 ②利用者に対しては、外出等の連絡を忘れずに行っていただきたい。 近隣住民に対しては、見守りや声かけなど協力体制づくりをお願いしたい。	B継続
12	子育てサポーターの人材育成	こども支援課	サポーター研修の実施	28 29 30 元 2	15 15 15 11 1	回	①令和2年度は養成講座を1回開催し、新規サポーター6名が登録した。月1回のフォローアップ研修会は感染症対策のため実施できなかったが、書面での情報提供及び情報共有を図った。 ②活動はないがサポーターだよりを発行し情報共有をすることで、サポーターの意識向上を図った。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①新規サポーターの確保及び感染症対策をした研修会の開催で、ボランティアの意識の向上を図る必要がある。 ②子育てを応援したい方はサポーター養成講座を受けてボランティアに登録してほしい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 04) 民生委員児童委員、保健推進員などの活動支援										
13	民生委員児童委員活動の支援	社会福祉課	民生委員・児童委員の実数	28 29 30 元 2	155 154 150 151	人	①令和元年度一斉改選により、新たに委嘱された民生委員・児童委員に対し、令和2年10月9日(金)午前・午後2回に分け合同研修会を実施した。 また、民生委員・児童委員の欠員補充に努めた。 ②合同研修会には139名参加があり、健康福祉部の5課より福祉行政について研修を実施した。 また、3名の民生委員の推薦があり欠員補充をした。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①令和4年度の一斉改選に向け、欠員なく委嘱できるように準備を進める。 また、広報等を活用し、民生委員・児童委員の活動について、市民に周知をしていく。	B継続
			相談・支援件数	28 29 30 元 2	1,139 1,121 1,164 1,045 859	件				
		社会福祉協議会	理事会、会長会等	28 29 30 元 2	28 27 26 26 18	回	①コロナ禍により理事会や地区定例会の中止を余儀なくされた一方、会長会を臨時で開催していくなど、6地区の情報共有に努めた。 ②民生委員・児童委員として、ポスティングや電話訪問など、非接触型の見守り活動を続けることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①研修が中止され、訪問が制限される中、民生委員・児童委員としての資質向上の機会を得にくくなっていることが課題である。 ②訪問活動などへの理解を深めていただけたら、民生委員児童委員の活動がよりしやすくなると思われる。	B継続
14	保健推進員活動	健康増進課	保健推進員訪問、4か月児健康相談来所者、赤ちゃんサロン来所者	28 29 30 元 2	1,926 2,192 2,308 1,794 988	人	①2~3か月児のいる家庭への全戸訪問のほか、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下においては、電話による母子への声かけを行い、市民の身近な相談者として活動し、支援が必要な家庭を地区担当保健師につないだ。 また、訪問時に必要な知識等の習得や円滑に活動が出来るよう、毎月の研修会で疑問に思うこと等の解決を図るための意見交換会等を行うとともに、子育て中の母をねぎらうメッセージカードなどの作成を自主的に行った。 ②研修会等を通して、目的の確認や役割への理解を深める機会を増やした結果、95.9%(乳児全戸訪問実績)の家庭に訪問や電話にて支援することができた。 また、意見交換会等を通し、保健推進員同士親睦を深めることができ、活動のモチベーションアップにつながった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①新規の保健推進員も含め、新型コロナウイルス感染症により通常の活動が制限される中でも、やりがいを持ち、不安なく活動できるよう、研修会で活動目的等についての確認を継続して行い、情報交換や話し合いの機会を積極的に持ち、活動を支援する。 ②活動の効果が理解できるよう、保健推進員による支援を受けた感想をフィードバックしてもらおうとともに、市民への周知が効果的にできる場を教えていただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策2 地域での支えあい拠点を増やします										
主な取り組み 05)活動拠点の整備と活用										
15	地域活動支援センターへの支援	障がい福祉課	地域活動支援センター利用者数	28 29 30 元 2	36 35 28 33 34	人	①鎌ヶ谷市の援護する障がい者の通所する地域活動支援センターⅢ型事業所(市内2か所、市外1か所)に対して、補助金を支出した。 ②地域において雇用及び就労が困難な在宅障がい者に対し、生産活動の機会などの支援を行うことができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①サービスの選択肢が多様化する中、本市内の社会資源やニーズに見合った支援が課題となっている。 ②障がい者の福祉に関する啓発、広報事業や地域との結びつきを重視した運営が必要。	B継続
16	自治会集会所整備に対する支援	市民活動推進課	自治会集会所整備件数	28 29 30 元 2	0 3 0 3 3	件	①三井鎌ヶ谷自治会解体・新築事業、道野辺あおば自治会借家事業、富岡自治会借家事業における整備について支援を行った。 ②福祉活動など地域コミュニティ活動のほか、災害時の一時避難施設として集会所を活用することで、自治会活動のより一層の充実を図ることができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①集会所の老朽化が進んでいる自治会については建替や修繕事業を、集会所を持たない自治会については借家事業を案内するなど、地域の実情に合った自治会集会所の計画的な整備を支援する。 ②集会所整備に係る自治会内での合意形成をお願いしたい。	B継続
主な取り組み 06)地域福祉コーディネーター(相談員)の配置と相談体制の充実										
17	地域福祉コーディネーターの配置	社会福祉協議会	人員配置	28 29 30 元 2	0 1 1 1 1	人	①6地区に配置しているコーディネーターと協働し、コロナ禍における事業のあり方などを検討した。 ②各地区の状況に応じた事業(脳トレプリントの配布、広報紙等の発行、ラジオ体操等)を進めることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①地域の状況に応じ、実施できる事業の内容や数が異なっている。 少しでも地域福祉を推進するために、実施できる事業を増やしていく必要がある。 ②多くの方に事業へ参加していただくことで、地区社協への理解が深まり、協力者が増えると思われる。 ぜひ積極的に事業へ参加していただきたい。	B継続
18	地域福祉コーディネーターの研修	社会福祉協議会	事務局会議等	28 29 30 元 2	11 16 11 10 11	回	①事務局会議9回と、連絡会として講師を招いての研修会、オンラインでの会議を実施し、コロナ禍であっても情報共有と職員の資質向上に努めた。 ②各地区の取組みを共有することで、サロンの代わりに脳トレドリルを配布するなどの事業を行うことができた。 また、研修会では全国の先駆的な事例を学ぶことで、事業のあり方を検討し直すきっかけとなった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①生活様式が変化し、事業のあり方についても変化が求められている。そのため、既存の方法にこだわらない柔軟さが必要となってきている。 ②開催する事業への積極的な参加と率直な意見をいただきたい。また、「できないこと」ではなく、「できること」についても教えていただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策3 ボランティアなどの多様な担い手を増やします										
主な取り組み 07)ボランティア活動への多様な人々の参加促進や人材育成等の総合的な支援										
19	ボランティアの活動しやすい環境づくり	市民活動推進課	情報提供数(チラシ掲示、HP記事掲載)、及び相談件数	28 29 30 元 2	361 368 426 364 352	件	①ボランティアが活動しやすい環境となるよう、市民活動推進センターにおいて、あらゆる機会を捉え、チラシの掲示、HPの記事掲載、相談事業を行った。 ②チラシの掲示(206件)、HPの記事掲載(27件)、相談事業(119件)により、ボランティア活動の情報提供やボランティア、市民公益活動、地域活動を希望している人をつなぐ窓口を充実させた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの情報提供や、3つの密を避けて相談を行う等、感染防止対策を行ったうえで環境づくりを行う必要がある。 ②ボランティア活動等を行う際にも、感染防止対策に配慮していただきたい。	B継続
	ボランティアの活動しやすい環境づくり	社会福祉協議会	相談件数	28 29 30 元 2	3,578 3,778 3,787 4,097 2,690	件	①新型コロナウイルス感染症の影響により、活動の自粛が続く中、福祉に関するボランティア窓口として、相談・連絡調整等に努めた。 また、コロナ禍の活動情報として、年齢や活動場所等問わず参加できる「令和元年度市民ボランティア体験特別企画おもてなし大作戦」(令和2年度実施)、ボランティア活動や施設等で活用される使用済み切手やウエス用布等の収集を周知した。 ②コロナ禍ではあったが、2,690件の相談があった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染状況を注視し、福祉に関わるボランティア情報の収集及び情報提供に努める。 ②特記事項なし。	B継続
20	市民に対する啓発の推進	市民活動推進課	講座の実施	28 29 30 元 2	10 10 11 11 5	回	①地域活動に興味がある市民を対象に、多様な主体の橋渡しを行う「地域づくりコーディネーター」の育成を目的とした講座「かがや地域づくりコーディネーター養成講座2020」を5回実施した。 ②その結果、Youtubeの総再生回数は747回となった。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの講座の実施を検討するとともに、コーディネーターとしての活動も3つの密を避ける必要がある。 ②認定したコーディネーターには、感染拡大防止に配慮した活動をしていただくとともに、今後必要となる地域活動やコーディネーターとしての活動を検討していただきたい。	B継続
	市民に対する啓発の推進	社会福祉協議会	講座の実施	28 29 30 元 2	25 27 27 28 4	コース数	①ウイズコロナに対応できるようPCを活用した「オンライン会議」の勉強会と、自宅で行えるボランティア活動を提案し、そのための研修会を実施した。 ②積極的にオンライン会議やセミナーに参加し、スキルアップに努める団体が見受けられた。 また、広く情報発信をすることで、多くの市民の参加につながり、ボランティアへの理解・関心を深めることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①引き続きPCを活用した講座を開催し、既存のボランティア活動に「誰でも気軽に参加できる活動メニュー」を加え周知するほか、ボランティア活動や施設等で活用される使用済み切手やウエス用布等の収集を通して「新しいかたち」のボランティア活動の参加を周知する。 ②特記事項なし。	B継続
21	ボランティアの育成と連携機能の強化	学校教育課	青少年赤十字宿泊活動	28 29 30 元 2	2 2 2 2 0	回	①新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。 ②特記事項なし。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①令和3年8月の活動は、新型コロナウイルス感染防止策をしつつ東部小で日帰りの形で実施予定だったが、緊急事態宣言を受け中止となった。12月の活動については未定。 ②特記事項なし	B継続
	ボランティアの育成と連携機能の強化	社会福祉協議会	夏休み福祉体験	28 29 30 元 2	36 40 62 55 0	人	①新型コロナウイルス感染症の影響により自粛。 ②特記事項なし。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①福祉への理解を深めるとともにボランティアとのふれあいをとおして活動することへの喜びを実感できるよう新型コロナウイルス感染状況を注視し、市の方針を踏まえ実施する。 ②特記事項なし。	B継続
22	健康づくりボランティア育成事業	健康増進課	健康づくりボランティア登録数	28 29 30 元 2	89 83 82 82 53	人	①ボランティアの育成として、定例会を2回実施、延べ46人の参加があった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため活動は中止した。 ②定例会や活動が中止となったが、オンラインを通し、活動の振り返りやコロナ禍での活動を考える機会となった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①コロナ禍での活動を検討する。 ②健康づくりボランティア活動に関心をもち、講座等に積極的に参加してほしい。	B継続
23	子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	こども総合相談室	提供会員数	28 29 30 元 2	167 160 164 171 171	人	①様々な事情で一時的に子どもの世話ができない場合等、地域の住民同士で相互援助で支えあいを行い、子育て支援を実施した。 ②提供会員数は昨年度と同数であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用件数は減少した。しかし、必要な対象者に対するサポートを行うことはできた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①保育園等の送迎や仕事等を理由として預かり等を必要としている家庭に対して、制度の周知を行うとともに、支援が必要な家庭が利用できるよう、引き続き十分な提供会員を確保する必要がある。 ②サポートを提供することができる方、サポートが必要な方が地域にいた場合には案内をお願いしたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
24	ボランティアセンター事業	社会福祉協議会	ボランティア登録人数	28 29 30 元 2	1,201 1,166 1,170 1,104 1,078	人	①新型コロナウイルス感染症の影響で、活動の制限や自粛中の登録ボランティアに対し情報紙を配布し、ボランティアのモチベーションの維持に努めた。 また、自粛中の自由な時間を活用し、スキルアップに努めた。 ②コロナ禍を機に活動終了を決意するボランティアの方もいたが、自粛期間は活動再開に向けての準備期間と捉え過ぎボランティアの方が多くいた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①市民がボランティア活動を通じて、人と出会い、つながり合い、学び合い、豊かな時間を過ごせるようにボランティアセンター事業の推進に努める。 また、福祉施設や企業の社会貢献活動や、ボランティア活動への情報提供に努める。 ②特記事項なし。	B継続
25	地区社会福祉協議会の活動	社会福祉協議会	ボランティア育成事業数	28 29 30 元 2	53 53 62 67 8	回	①コロナ禍の中、各地区とも事業の形態を変えながら、脳トレプリントの配布や委員向けの体操、手すき葉書作りなどに取り組んだ。 ②地域の中でも中心的な存在である多くの委員について、活動できないことでモチベーションの低下が危ぶまれた。しかし、感染対策を講じながらできる範囲で事業を行うことで、委員自身のモチベーションを維持し、次年度以降に繋がる「新しい生活様式」に沿った事業内容を検討するきっかけとなった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①多くの事業が中止を余儀なくされ、活動自体が困難であったことが最大の課題となっている。 ②市の感染予防に関する方針等を踏まえながら、安心して活動できるよう、感染予防への理解及び実施方法についてのアイデアをいただきたい。	B継続
主な取り組み 08)市民活動の支援										
26	市民活動推進センター	市民活動推進課	センター来所者	28 29 30 元 2	5,010 5,977 6,256 5,251 734	人	①市民との協働により、多様な主体間の交流イベント「市民活動・男女きらりフェスタ」をオンラインで開催したほか、チラシ、HPにより情報発信、相談事業等を行った。 ②その結果、市民活動推進センターへの来所者は734人となった。「市民活動・男女きらりフェスタ」の視聴者アンケートでは、「市民活動・地域活動・ボランティア活動等に興味を持って(深まった)」と回答した方は83%おり、市民活動の啓発につながった。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでどおりのイベント等の開催が困難な状況にあるため、「新しい生活様式」に沿った内容とする必要がある。 ②「市民活動・男女きらりフェスタ実行委員会」に、今後の当該イベントのあり方を検討していただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 09)生涯学習機会の拡充										
27	社会福祉センターの活用	高齢者支援課	広報依頼件数	28 29 30 元 2	11 12 11 11 5	件	①地域の活動拠点となる社会福祉センターにて、広報への依頼があった際の窓口となり、令和2年度は5件の依頼を受け、広報に記載した。新型コロナウイルス感染症の影響により、講座の広報掲載は前年度から6件減少した。 ②社会福祉センターで行われる事業を周知することができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①個別付属設備が老朽化している。 ②引き続き指定管理にて適正に管理運営する。	B継続
28	成人講座、ふれあいまつりなどの学習センター主催事業	生涯学習推進課	広報等による周知	28 29 30 元 2	20,550 20,288 19,175 16,537 714	人	①生涯学習を推進するため、生涯の各時期に応じた多様な学習機会の提供や、団体やサークルの学習活動の支援など各種事業を企画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、多くの事業をやむを得ず中止した。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、高齢者を対象とした事業は全て中止したが、感染症対策を徹底し、8事業を実施、714人の参加があった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①コロナ禍における、学習ニーズの多様化に対応した学習機会の検討していく。 ②各学習センター主催事業に積極的に参加していただきたい。	B継続
29	かまがやまなびい大学	生涯学習推進課	受講者数	28 29 30 元 2	13,832 12,236 17,959 17,942 80	人	①行政の各部署ごとに学部を設置し、学部ごとに主催講座を企画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の観点から、中止した。 また、職員を講師として市民団体などの研修会や講習会に、感染症対策を徹底し派遣した。 ②学部主催講座 6講座 中止 講師派遣事業 4件 80人	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①講師派遣メニューを充実させる必要がある。 ②地域の集まりなどで講師派遣事業を活用していただきたい。	B継続
主な取り組み 10)高齢者の持つ知識や技能を生かす場の提供と活動団体の育成										
30	シルバー人材センターへの支援	高齢者支援課	会員数	28 29 30 元 2	484 491 496 529 527	人	①シルバー人材センターの広報活動や運営上の手続きに協力した。 ②令和2年度は会員数が527名(令和元年度と比較して2名減)だった。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①世代間ニーズの相違等により、会員数が横ばい傾向にある。 ②会員数の増加に向けて、社会参加意識を広げてもらう。	B継続
31	世代間交流の充実	幼児保育課	おじいちゃん先生採用人数	28 29 30 元 2	4 4 4 4 4	人	①少子化、核家族化の進行する中で、保育園において人生経験豊かな中高齢者を保育士を補助する職員として雇用した。 ②各公立保育園で各1名(合計4名)を採用した。 日常保育の中で、遊び等を通じて中高齢者と触れあうことにより、乳幼児の豊かな情操を育むことに寄与した。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①安定した人員の確保が必要である。 ②人員確保のため、地域での就労希望者の紹介をお願いしたい。	B継続
32	高齢者の社会参加と地域における支えあい体制づくり	高齢者支援課	ゲートボール場	28 29 30 元 2	7 7 7 7 4	箇所	①令和2年度は高齢者に身近なスポーツ施設であるゲートボール場の土地賃貸借契約を継続し、またゲートボール場にダスト(舗装するための砂粒)を搬入した。 また、高齢者の活動の継続・存続を支援した。 ②令和2年度は契約終了等により、ゲートボール場が3箇所(3コート分)減少した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①契約者・利用者が高齢化しており、活動人数の減少傾向にある。 ②スポーツ活動・社会参加への意識を広げてもらう。	B継続
33	活動希望団体への助言	高齢者支援課	単位老人クラブ	28 29 30 元 2	30 29 29 29 26	箇所	①老人クラブや老人憩の家で活動することへの相談受付を通して、必要であれば関係各課や社会福祉協議会に連絡した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①活動希望団体について、さまざまな部署に関する内容を含む相談が多い。 ②地域との協力体制の中から、活動している団体同士の情報共有をしていただきたい。	B継続
		高齢者支援課	憩の家	28 29 30 元 2	7 7 8 8 10	箇所	②老人憩の家が2か所増設となった。 相談受付を通して、老人クラブや老人憩の家を周知した。			
34	老人クラブへの支援(再掲)	高齢者支援課	会員数	28 29 30 元 2	1,482 1,493 1,430 1,392 1,232	人	①新型コロナウイルスの影響によりすべての事業が中止となったが、各事業を円滑に推進するため部会事業実施細則を策定した。 ②各部会主催事業の円滑な実施に係る会員相互の役割分担等が明確になった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①会員全体の年齢が高齢化している。 今後の取組として、市老連の事業及び各単位クラブの紹介などを掲載する会報誌を発行する。 ②おおむね60歳以上について各年代の社会参加意識を広め、老人クラブで活動することへの関心を持ってもらう。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
基本目標2 必要な相談・情報・支援が得られるしくみを推進します										
施策4 身近な相談支援体制を充実します										
主な取り組み 11) 様々な相談窓口の周知										
35	相談窓口の周知	市民活動推進課	相談窓口の 広報掲載件 数	28 29 30 元 2	12 12 12 12 12	件	①各種相談窓口について、市広報で12回周知した。 ②周知した結果、全体で297件の相談に応じることができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①各種相談窓口について、市広報で周知する。 ②地域のふれあいの中で、困っている人に各種相談窓口を紹介していただきたい。	B継続
		高齢者支援課	相談件数	28 29 30 元 2	6,384 5,168 5,892 11,140 10,945	件	①高齢者支援課や地域包括支援センターの相談窓口について周知してもらえるよう在宅医療介護連携推進(広報部会)で令和元年度に引き続きポスターを作成した。 また、認知症チェックリストも作成し市民に配布した。 ②窓口、関係機関、公共施設、医療機関等に配布し相談窓口の周知をすることができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①ポスターを関係機関に周知し、広く市民に周知する。 また、配布活動を通して地域包括支援センターの役割を周知し、関係機関と顔の見える関係づくりを行う。 ②近所で支援が必要な人がいたら地域包括支援センターのポスターや認知症のチラシがあることを伝えてほしい。	B継続
36	健康増進事業	健康増進課	健康相談実施数	28 29 30 元 2	5,913 5,727 6,162 5,572 3,487	人	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した事業が多かったため、電話等での個別の健康相談を主に実施。 ②一人ひとりの問題に沿った、より適切な相談ができるよう対応し、健康づくりや問題解決へとつながった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①一人ひとりの問題に沿った、より適切な相談ができるよう、職員の研修研鑽を継続する。 また、必要な人が相談できるよう各種相談を周知する。 ②市民や地域の集まりの際に、健康相談を取り入れたり、活用していただきたい。	B継続
37	心配ごと相談、心の相談事業	社会福祉協議会	相談延件数	28 29 30 元 2	177 161 170 161 152	件	①心配ごと相談では、市民が気軽に相談できる窓口として、初期相談に対応した。新型コロナウイルス感染症の影響により7月より相談員2名体制から1名体制へ減員。 心の相談では、人間関係の改善や相談者自身の健康について、相談を受け付けた。 毎年実施していた相談員向け研修会については未実施。 また、5月から対面での相談を中止・電話相談のみの対応とした。(相談時間も1時間短縮した) ②電話相談だけになったことで、コミュニケーション方法が声のみになってしまったが、相談者の悩みや不安を傾聴できるよう心がけることが出来た。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の影響により、変更点が生じたが、ご理解をいただきながら心配ごと相談所を開設した。 今後も相談者からの悩みや不安に対し、傾聴を重視しながら専門相談にも繋げるなど、相談者が悩みを抱え込まないように心がける。 ②特記事項なし。	B継続
38	高齢者の虐待防止など権利擁護の取り組みの推進	高齢者支援課	相談件数	28 29 30 元 2	10 9 22 21 35	回	①警察からの高齢者虐待事案通報票や地域包括支援センターからの虐待相談を受け、関係機関と連携して事実確認を行い問題解決に向けた対応ができた。 また、市の虐待マニュアルを作成した。 ②虐待により居宅での生活が困難なケースに対しては特別養護老人ホームへの措置入所を支援した。 また、マニュアルを関係機関に周知することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①コロナ禍の影響もあり高齢者と養護者が時間を共有することが増え、虐待件数が増加した。 養護者の経済的・精神的な負担を軽減するために他部署と連携し支援体制を確立していく。 ②日頃から地域での見守りをお願いしたい。 また、気になることがあれば市、地域包括支援センターへ連絡をお願いしたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 12)高齢者の相談支援体制の充実										
39	総合相談支援業務	高齢者支援課	相談件数	28 29 30 元 2	6,384 5,168 5,892 11,140 10,495	件	①地域包括支援センターにおいて、健康、医療、福祉に関する総合的な相談支援を行った。 ②虚弱、認知症、独居などの介護支援や見守り、医療や介護が必要な方へサービスをつなげることができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①地域包括支援センターにおいて、健康、医療、福祉に関する総合的な相談や支援を引き続き行う。 ②身近な方でお困りの方がいたら地域包括支援センターを含め関係機関に情報提供してほしい。	B継続
40	地域包括支援センター	高齢者支援課	相談件数	28 29 30 元 2	98 225 438 647 228	件	①権利擁護、介護予防ケアマネジメント及び地域ケア会議等を行った。 ②各地域包括支援センターに訪問依頼を行い、医療や介護サービス等に迅速に繋げることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①引き続き総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメントを実施する。 また、市で行っている事業内容を把握し適切なサービスに繋げるよう取り組む。 ②高齢者の見守りを行い、必要に応じて関係機関へ情報提供をしてほしい。	B継続
主な取り組み 13)子育ての相談支援体制の充実										
41	利用者支援事業の実施	こども支援課	設置箇所数	28 29 30 元 2	1 1 1 1 1	箇所	①子育て支援コーディネーターを配置し、教育・保育施設や地域子育て支援事業等の利用者に対して情報提供や助言を行うとともに、地域の子育て資源の育成を図った。 ②利用者支援事業については、週2回程度実施した。 また、公共施設における出張窓口については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、9月までは中止としたものの、10月以降計6回実施した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①子育て世代が求めている情報提供及びニーズを把握し、助言を行うとともに、子育てサークルの育成講座などを実施する。 また、オンライン相談等の実施について、検討する。 ②地域の子育てサークル育成のため、育成講座に参加をしてもらう。	B継続
42	妊産婦に対する訪問・相談	健康増進課	妊産婦に対する訪問・相談実施件数	28 29 30 元 2	1,634 1,571 1,617 1,575 1,656	件	①利用者支援事業(母子保健型)を継続するとともに、母子健康手帳交付時に保健師・助産師による全数面接を行うとともに支援プランを作成し、必要時、妊産婦訪問・相談を実施した。 妊産婦への支援を「産前産後サポート事業」に位置付けることで内容を明確にし、他機関へつなげる等、切れ目ない支援を行った。 また、早期の母子健康手帳交付となるよう、広報などで広く周知を行った。 ②母子健康手帳交付時に専門職が全数面接し、支援プランを作成できた。 また、支援が必要な妊産婦には電話や訪問等で確実に支援することができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①早期に母子健康手帳の交付につながるよう広報やホームページでの周知徹底に努める。 また、一人ひとりに寄り添った、きめ細やかな情報提供を行うとともに、要支援者を必要な支援に繋がれるよう、職員のスキルの向上と相談しやすい体制づくりに努める。 ②民生委員、主任児童委員、保健推進員等、地域の支援者の方に各種サービスや相談窓口を知ってもらい、必要な方をつなげてもらう。	B継続
43	子どもに対する訪問・相談	健康増進課	子どもに対する訪問・相談実施件数	28 29 30 元 2	5,465 5,401 5,289 4,783 4,013	件	①出生届出時に母子保健サービス登録票の提出を受け、新生児訪問を実施し、必要なサービスに繋げた。その後も支援が必要な乳幼児には、訪問等で相談・指導を実施した。 また、乳幼児健康相談・健康診査は全数通知をするとともに、未受診者へは訪問や面接・電話にて支援を実施した。 さらに、支援する側のスキルを向上させるため、定期的に研修会を実施した。 ②出生時から、母子保健サービス登録票を確実に提出してもらい、その後も新生児訪問や健康診査等で切れ目ない支援を行うことができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①母子保健サービス登録票の提出時の面接、乳幼児健康相談・健康診査未受診者への対応を継続し、必要な支援・サービスにつなげる。 また、研修会の実施等で、継続して職員の面接技術の向上を図る。 ②民生委員・児童委員、主任児童委員、保健推進員等、地域の支援者の方に各サービスや相談窓口を知ってもらい、必要な方をつなげてもらう。	B継続
44	子どもの教育に関する相談の実施	学校教育課	心理発達相談員の相談回数	28 29 30 元 2	351 244 315 271 575	回	①心理発達相談員が特別支援教育のニーズに応じて、指導室窓口及び巡回相談を通して、観察・相談・検査を行った。 ②児童生徒のニーズに応じて教職員や保護者に学校や家庭での支援や対応について丁寧に助言を行い、成果を上げている。 近年要因が複雑化したケースも多く、相談回数は昨年度と比較して約2倍に増加している。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①心理発達相談員への相談内容は、多様化・複雑化している。 心理発達相談員の相談ケースに対する情報の共有から家庭訪問相談員をはじめ、不登校児童生徒に対して、家庭を含めた支援を行っていく。 相談件数の増加に伴い発達検査への実施及び全小中学校への巡回相談を実施し、きめ細かな対応と支援について関係機関と一体となり進める。 ②特記事項なし	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
45	家庭児童相談室	こども総合相談室	相談受付件数	28 29 30 元 2	9,328 9,406 14,345 14,319 14,867	件	①子どもと家庭に関する身近な子育ての相談から児童虐待に至る深刻な相談まで対応した。 ②令和2年度の相談対応延べ件数は、14,867件であり、相談件数の内訳として、虐待関係の相談が全体の約半数を占めた。 相談内容に応じて、関係各所と連携し、迅速な支援を実施することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①子どもの養育環境の複雑化や生活の多様化により、児童虐待や養育に困難が生じている家庭が増加していることから、対応する職員の専門的な知識を向上させるとともに、きめ細やかな支援が必要になる。 ②子育てに悩む親や、児童虐待を受けていると思われる子どもに気づいた際には、連絡をお願いしたい。	B継続
46	児童センター・保育園による相談事業	子育て支援センター	電話・サロン等での相談	28 29 30 元 2	510 160 797 546 321	件	①子育て支援センター・各児童センターにおいて実施するつどいの広場や子育てサロンでの相談のほかに、電話相談を受け付けた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①保護者からの相談を受ける職員・子育てアドバイザーの質の向上が必要。 ②地域で孤立したり、悩んでいる親子を見たら子育て支援センターや児童センターの利用を勧めてほしい。	B継続
		各児童センター	電話・つどいの広場等での相談	28 29 30 元 2	676 197 896 923 484	件	②母親からの何気ない会話から相談まで、寄り添って聞くことで子育ての不安感の軽減につながっている。内容によって関係機関につなげ、支援の幅を広げることが出来た。			
		幼児保育課・各保育園	電話・園庭開放等での相談	28 29 30 元 2	364 209 379 298 304	件	①窓口や保育園において、子育ての悩み等の相談を受け付けた。 ②相談内容に応じて、関係機関へつなげ、支援に寄与することができた。			
47	子どもの発達に関する相談の実施	こども発達センター	相談・支援件数	28 29 30 元 2	3,999 3,899 4,367 4,833 3,912	件	①療育支援として、専門職による相談を実施した。(電話、来所、施設への訪問) 指定障害児相談支援事業所では、福祉サービスの利用に向けての基本相談、計画相談を実施した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、4月9日～5月31日は集団療育、面接及び家庭訪問は実施できなかったため、電話相談で対応した。 ②子どもの発達に関する相談機関として、保護者や関係機関からの相談を受け、子育て環境を整える支援を行った。 入園等の在籍場所ができるまで、保護者の発達の不安に応じるため、親子教室の対象、内容を変更し、わくわくルームに改名して実施した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①保護者からの相談のほか、地域の保育の現場等からも障がいの早期発見、早期対応のため専門職の助言の希望が増えている。 新型コロナウイルス感染症の影響により、外出が減り、他者との関わりが減っている親の不安を受け止め、子どもの発達について相談に応じることができる体制を整える必要がある。 ②発達障がいやその特性のある子どもを地域全体で支えていくために、支援が必要な子どもや保護者に利用を勧めてほしい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 14)障がいのある人の相談体制の充実										
48	障がい者相談支援事業	障がい福祉課	相談件数	28 29 30 元 2	9,392 9,025 11,155 11,429 14,400	件	①障がい者や家族からの相談に応じ必要な援助等のために、1か所の事業所に相談業務を委託し、障がい者の自立した日常生活、社会生活の向上を図った。 また、各種相談員の資質向上や地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として、基幹相談支援センターで専門的な助言指導を行った。 ②利用件数が増加した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①委託先の事業所で人員不足等の課題があるため、改善できるように働きかけを行う。 ②基幹相談支援センター、委託先事業所と今後も連携して事業を行う。 また定期的な打ち合わせも継続していく。	B継続
49	精神保健相談	健康増進課	相談数	28 29 30 元 2	1,284 1,255 1,187 1,241 1,454	人	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、精神保健学習会は中止し、市ホームページや広報紙を活用した。 また、ゲートキーパー養成等を実施し、随時、電話・面接・訪問で相談に対する支援を継続して実施した。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため各事業が中止するなか、機会を見つけゲートキーパー養成を実施することができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①令和3年3月策定した自殺対策計画を含む「第3次いきいき・プラン健康かまがや21」に基づき、教育・相談を実施する。 ②ゲートキーパーになり、地域で支える理解者となってほしい。	B継続
50	児童発達支援(のびのびルーム)	こども発達センター	利用人数	28 29 30 元 2	43 45 43 38 32	人	①心身の発達に心配のある乳幼児に対し、一人ひとりの状況に合わせて、基本的な生活習慣の自立・社会性・身体機能の発達を促すように通所による支援を行った。 新型コロナウイルス感染症の影響により、4月9日～5月31日、3月16日～3月29日に臨時休所となり、電話で状況の確認と保護者の相談に応じた。 ②個別支援計画に基づいて、施設の専門性を高め療育支援、家族支援を実施した。 行事の規模を縮小して実施するなど運営の変更をした。 幼稚園、保育園との併用療育を実施した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①併用療育利用児の日中の生活の場である幼稚園、保育園等との連携を強化していく。 ②障がい児とその家族が安心して生活できる地域づくりを考えていく必要がある。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策5 生活困窮者の自立支援をすすめます(新規)										
主な取り組み 15)生活困窮者への自立支援										
51	自立相談支援事業	社会福祉課	相談件数(新規、継続併せて)	28 29 30 元 2	98 84 91 78 421	件	①新型コロナウイルス感染症の影響により、離職や廃業になった相談者が増加した。 主な対応として、住居確保給付金や社会福祉協議会の生活福祉資金の利用を案内した。 ②相談者数は前年比5.3倍に増加した。 対応は、住居確保給付金や給付金等の制度の案内が中心となったため、プラン作成件数は約1.46倍に留まった。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①早期に困窮状態から脱却できるよう、各種制度の情報収集や他機関との連携を重ね、効果的な支援プランを提案していく。 ②複合的な課題を抱える方に対応していくため、地域における様々な機関や団体とのネットワーク作りを行いたい。	B継続
		社会福祉課	支援プラン作成(再プラン含む)	28 29 30 元 2	58 58 67 56 82	件				
52	住居確保給付金の支給	社会福祉課	支給対象(新規、継続含む)	28 29 30 元 2	2 5 9 6 77	人	①新型コロナウイルス感染症の影響により、離職や廃業、減収になった人が増加し、住居確保給付金の運用が変更になった。(年齢要件の撤廃、求職活動要件の緩和、算定方法の変更、支給期間の延長等。) ②住居確保給付金の支給決定者は前年比12.8倍に増加。415か月分の家賃相当額の給付を行った。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の影響で支給要件が緩和され、制度も認知された。 今後も制度改正や運用の変更に対して、必要な事務手続きの整備や周知を迅速に行う。 ②新しい制度の実施など、情報共有していただき、利用を促進したい。	B継続
		社会福祉課	支給額	28 29 30 元 2	377 1,109 1,754 1,251 17,234	千円				
		社会福祉課	自立した人	28 29 30 元 2	0 2 6 6 18	人				
53	就労準備支援事業	社会福祉課	講座実施回数	28 29 30 元 2	8 12 12 4	回	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、調理実習や職場見学などが実施できなかった。 一方、生活習慣の見直しや履歴書の書き方などの内容の講座を実施した。 また、今後のアウトリーチによる支援も想定し、個別に他機関への同行も行った。 ②自宅に籠りがちな人については、公共の交通機関を使い、他機関や病院へ同行した。回数を重ねることにより、外出や他人との接触に抵抗感が薄くなっていく効果が確認できた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①自ら就職活動が困難なひきこもり者や長期未就労で就労する自信を失ってしまった人の早期発見する手段や体制の構築を行う。 ②本人からの相談だけでなく、家族からの相談も寄せられるようにしていきたい。	B継続
		社会福祉課	参加者数(実数)	28 29 30 元 2	24 17 11 10	人				
		社会福祉課	就労した人	28 29 30 元 2	3 5 2 5 0	人				
54	学習支援事業	社会福祉課	実施回数(学習支援、レクリエーション)	28 29 30 元 2	39 50 49 41 37	回	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校の臨時休校に準じた対応をし、こどもの学習・生活支援事業について、予定していた実施回数より約10回減少させるとともに、イベントや課外活動も内容を縮小した。 学習指導については、英語や数学に重点をおき学習指導を行った。中学から高校に進学した生徒は、関わりを続け、アルバイトの勤めを行った。 また、保護者に対して、LINEを使用した情報提供・意見交換を実施した。 ②令和2年度は、学習意欲のある生徒が複数人いたこともあり、英語や数学に詳しい学習指導員を配置したが、保護者からの評価も高かった。 中学生の中にはまだ具体的な将来の夢や目標がない生徒も少なくなかったが、高校生となり部活やアルバイトを始めたり、活動的になったように見受けられる。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①屋外での活動が制限されるだけでなく、密にならないよう会話を楽しむ機会も少なくなったが、将来に希望を持つことができるようなプログラムを企画し実践していく。 ②事業を利用する児童・生徒の保護者と意見交換し運営していく。	B継続
		社会福祉課	参加者数(実数)	28 29 30 元 2	22 57 57 45 29	人				
		社会福祉課	高校進学率	28 29 30 元 2	100 100 100 100 100	%				

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策6 地域福祉に関する広範な情報提供をすすめます 主な取り組み 16)情報発信の強化										
55	多様な広報媒体の活用	安全対策課	安心eメール登録者数	28 29 30 元 2	7,117 7,927 8,434 9,256 9,902	人	①広報かまがや(毎号:年24回)に登録用QRコードを載せた。 ②令和元年度末に9,256人だった登録者が、令和2年度末には9,902人と646人増加した(防災配信5,975人・防犯配信3,927人※重複登録者あり)。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①安心eメールの登録者をさらに増やすため、PR活動を継続する。 ②地域においても安心eメールの登録をPRしていただきたい。	B継続
	多様な広報媒体の活用	市民活動推進課	相談窓口の広報掲載件数	28 29 30 元 2	12 12 12 12 12	件	①各種相談窓口について、市広報で12回周知した。 ②周知した結果、全体で297件の相談に応じることができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①各種相談窓口について、市広報で周知する。 ②地域のふれあいの中で、困っている人に各種相談窓口を紹介していただきたい。	B継続
56	広報紙の充実	秘書広報課広報広聴室	広報発行回数	28 29 30 元 2	24 24 24 24 24	回	①「広報かまがや」の定期的な発行(市ホームページへの掲載、SNSでの告知、スマートフォン用アプリ「マチイロ」での配信を含む)、新聞未購読世帯の希望者へのポスティング実施、公共施設や駅への配置、声の広報の実施、より読みやすく親しみのある紙面デザインの実施。 ②市の施策や行事、市民の自主的活動等の市民生活に必要な情報を提供し、市政への理解と協力を得ることに資する広報紙を発行することができた。また、「広報かまがやカラーユニバーサルデザイン(CUD)適用マニュアル」に基づいた、誰もが分かりやすい色づかいとすることによって、高齢者、視覚障がい者等にも見やすい紙面とすることができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①障がいの有無等に関わらず、より多くの読者に市政情報等について周知するために、「広報かまがやカラーユニバーサルデザイン(CUD)適用マニュアル」に沿った広報紙の発行を継続する。 また、文字情報だけではなく、効果的なイラストや写真を掲載するなどし、視覚的にもより読みやすく親しみの持てる広報紙を発行する。 ②声の広報を、引き続き朗読ボランティアと協力して作成し、視覚障がい者へ配布する。	B継続
57	市ホームページのリニューアル事業 (該当事業は平成30年度をもって完了したため、令和元年度からは市ホームページ管理・運営事業に改称し、実施している)	秘書広報課広報広聴室	市ホームページ更新件数	28 29 30 元 2	1,357 1,457 1,957 2,983 3,447	件	①CMS(コンテンツ・マネジメント・システム)が導入されたりリニューアル後の市ホームページについて、市職員向けのCMS操作研修を実施、全国瞬時警報システム(Jアラート)試験送信の実施。 ②市職員向けのCMS研修を通して、ウェブアクセシビリティに配慮した市ホームページコンテンツ作成に関する職員間の共通認識を深めることができた。 また、各所属におけるコンテンツの作成が可能となったことにより、迅速で正確な情報提供が可能となった。 加えて、大規模災害時等の緊急時に即時に情報を配信する体制を確保することができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①市ホームページの全面リニューアルの完了をもって事業は平成30年度で達成したが、今後も市ホームページの管理・運営にあたり、誰もが利用しやすいホームページとなるよう、ウェブアクセシビリティに配慮し、市民に見やすく分かりやすい行政情報の提供を行っていく。 ②市民生活に必要な情報や本市の魅力を積極的に発信し、「お問い合わせメール」及び「市政へのご意見」フォームを通して今後も意見などを受け付ける。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 17)地域活動や学習活動を通じた直接的な情報提供手段の模索										
58	高齢者生涯学習	高齢者支援課	生涯大学への推薦	28 29 30 元 2	1 3 3 1 0	人	①令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、生涯大学の学生募集がなかった。 ②新型コロナウイルス感染症の影響で、生涯大学の学生募集がなかった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①例年推薦する人数が増加しないこと。 ②社会参加意識を広めてもらうために、このような大学を利用していただきたい。	B継続
59	成人講座、ふれあいまつりなどの学習センター主催事業(再掲)	生涯学習推進課	広報等による周知	28 29 30 元 2	20,550 20,288 19,175 16,537 714	人	①生涯学習を推進するため、生涯の各時期に応じた多様な学習機会の提供や、団体やサークルの学習活動の支援など各種事業を企画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、多くの事業をやむを得ず中止した。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、高齢者を対象とした事業は全て中止したが、感染症対策を徹底し、8事業を実施、714人の参加があった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①コロナ禍における、学習ニーズの多様化に対応した学習機会の検討していく。 ②各学習センター主催事業に積極的に参加していただきたい。	B継続
60	かまがやまなびい大学(再掲)	生涯学習推進課	受講者数	28 29 30 元 2	13,832 12,236 17,959 17,942 80	人	①行政の各部署ごとに学部を設置し、学部ごとに主催講座を企画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の観点から、中止した。 また、職員を講師として市民団体などの研修会や講習会に、感染症対策を徹底し派遣した。 ②学部主催講座 6講座 中止 講師派遣事業 4件 80人	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①講師派遣メニューを充実させる必要がある。 ②地域の集まりなどで講師派遣事業を活用していただきたい。	B継続
61	社会参加促進事業	身体障がい者福祉センター	受講者数	28 29 30 元 2	1,644 1,718 1,647 1,490 1,440	人	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、4~5月は講座を中止した。 6月から毎月講師からの課題や資料を配布して、在宅講座として実施した。 ②受講者は障がいを持つ高齢者がほとんどであるため、新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高く、在宅講座を実施し感染のリスクを低減することができた。 さらに、課題への取組み状況の把握のため定期的な電話連絡を行い、受講者の心身の様子や相談事などを把握し、必要時、関係部署へ繋ぐことができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①受講者の大半が後期高齢者であり、ADLの低下が顕著な場合には、必要な支援に繋いでいくことが必要となる。 今後、介護保険サービス等の周知を行い、本人や家族の理解を高めてサービス利用への理解を高めていく。 ②近年、災害が多発していることから、地域においても日頃から特に一人暮らしの高齢障がい者への見守りや声のかけあいを行っていただき、災害時に必要な場合には、できる範囲での避難を支援してほしい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
基本目標3 安全で安心して暮らせるしきみを推進します										
施策7 避難行動要支援者への支援をすすめます《重点施策》										
主な取り組み 18)災害時に支援が必要な人の把握と安全確保策の推進										
62	災害時要援護者避難支援制度周知事業	社会福祉課	周知回数	28 29 30 元 2	1 1 2 3 0	回	①令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、自治会連合協議会理事会での周知や、自治会への個別訪問による制度の説明を行うことができなかった。 ②避難支援制度を理解していただき、新たに3自治会と協定を締結し、同意者名簿を提供することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①より多くの自治会等と協定を締結し、同意者名簿を提供できるよう、自治会連合協議会理事会での周知を実施する。 また、新型コロナウイルス感染症の影響により、自治会への個別訪問が難しい状況にあるので、感染症対策に配慮した小規模な説明会等の実施を検討する。 ②自分の家のまわりに、ひとりでは避難することが難しい高齢者や障がい者等がいることを知っていただきたい。	B継続
		社会福祉課	説明会開催数	28 29 30 元 2	1 1 11 5 0	回				
63	災害時要援護者個別計画作成事業	社会福祉課	個別計画作成人数	28 29 30 元 2	512 354 0 0 0	人	①登録者数354人は、避難支援制度の旧制度における指標であり、平成30年度に新制度へ移行したことにより、リセットしたが、その後、まだ要支援者と自治会等で個別支援プラン(個別計画)の着手に至っていないため、0人である。 ②支援する側の体制が整っていないこともあり、協定を締結し、同意者名簿の提供をする段階にとどまった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①自治会に避難支援制度を理解していただき、協定の締結を進めるとともに、地域による個別支援プラン(個別計画)の作成支援に取り組んでいく。 ②日ごろの見守りや声かけ、個別支援プランの作成など、自治会、民生委員・児童委員、地域のボランティアなどの連携を進めていきたい。	B継続
64	災害時要援護者リスト(避難行動要支援者名簿)整備事業	社会福祉課	要支援者数(避難行動要支援者名簿登録者数)	28 29 30 元 2	2,807 4,058 4,216 4,801 5,840	人	①対象者名簿を年に1回更新した(5,840人)。要支援者に支援希望の有無を確認し、地域での情報共有に対して2,019人の同意があった(令和3年3月31日現在)。 ②対象者名簿を関係部署(防災担当課、健康福祉部、消防本部)の間で共有することができた。 地域での支援を希望する要支援者が2,019人いることが分かり、地域の避難支援体制づくりの基礎材料となった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(令和2年度) ①より多くの自治会等と協定を締結し、同意者名簿を活用した避難支援体制づくりを支援していく。 ②自分の家のまわりに、ひとりでは避難することが難しい高齢者や障がい者等がいることを知っていただきたい。	B継続
		社会福祉課	要支援者のうち、地域で共有することについて同意した者	28 29 30 元 2	0 0 1,913 2,243 2,019	人				

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策8 安全なまちづくり・防災防犯活動をすすめます										
主な取り組み 19)安全な移動手段の確保										
65	道路・歩道等の整備	道路河川整備課	整備延長	28 29 30 元 2	1,965 1,058 600 383 356	m	①道路整備(道路舗装・歩道整備等)をL=356m実施した。 ②道路環境が改善され、振動、騒音等の軽減に繋がった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①歩道の整備等、工夫が必要な事業には用地買収が伴うことから、多額の費用や多くの年月を要する。そのような中、国からの交付金の内示率が低く、十分な財源の確保が難しい状況であることから、限られた費用の中で成果を挙げられるよう事業に取り組んでいく。 ②特記事項なし。	B継続
66	コミュニティバス運行助成事業	都市計画課都市政策室	利用者数	28 29 30 元 2	90,089 123,932 129,033 131,843 87,445	人	①令和2年度は運行経費の補助を行った。また、令和3年度からの新たな運行計画開始に向け、庁内意見照会、事業者協議を行った。 ②令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者は前年度比で約34%減少した。新たな運行計画については、新型コロナウイルス感染症の影響により事業者から要望があったことなどから延期した	A順調に進んでいる	(R3年度) ①コミュニティバスを維持するため、引き続き運行補助を行う。 ②コミュニティバスを多くの市民が利用することで持続可能な運行を継続する。	B継続
67	安全な歩行空間の確保	道路河川管理課	看板撤去	28 29 30 元 2	64 5 2 0 0	枚	①市内の主要幹線道路及び駅前広場等の違法看板合同撤去作業を1回行ったが、違法看板はなかった。駅周辺の放置自転車等の撤去作業を年50回行い、126台撤去した。 また、市内小学校第5、6学年及び市内中学校全学年に自転車の放置禁止を呼び掛けるパンフレットを配布した。 ②違法看板及び放置自転車の台数も減少した。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①ここ数年違法看板の撤去はなく、自転車の撤去台数についても減少しているが、引き続き対策を実施していく。 ②市でも定期的に見回りを行っているが、市民からの通報も重要な情報源であるため、路上での違法看板及び放置自転車を発見し、それが通行に支障をきたす恐れがある場合、市へ通報していただくと幸いである。	B継続
		道路河川管理課	自転車撤去	28 29 30 元 2	370 324 260 212 126	台				
68	通学路安全対策推進行動計画に基づく各種事業	学校教育課	児童生徒の交通事故件数	28 29 30 元 2	23 16 15 14 14	人	①第三次通学路安全対策推進行動計画に基づき、令和2年度の安全施設等の設置工事については、グリーンベルトの補修、横断防止柵の設置など、市内26箇所を実施した。また、通学路でありかつ交通量の多い交差点に車止めを設置した。 ②様々な事業の効果もあり、児童生徒の事故件数については減少傾向である。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①児童生徒の事故件数については減少傾向であるが、今後も安全施設等の設置工事、子ども自転車安全講習会やスクエアドストレイト自転車安全運転教室の実施等を通じて、ハード面とソフト面の両面から対策を実施していく。 ②安全対策が必要と思われる通学路があれば、地域からも、学校を通じて要望していただきたい。	B継続
主な取り組み 20)防災対策の充実強化と防災意識の高揚										
69	地域防災計画	安全対策課	地域防災計画の改訂	28 29 30 元 2	0 1 0 0 0	回	①令和2年度は地域防災計画の改訂等は行っていないが、随時、広報かまがや・市ホームページ等で鎌ヶ谷市洪水ハザードマップの更新、全国瞬時警報システム(Jアラート)からの安心eメールや市公式ツイッターなどへの自動連動配信、警戒レベルによる避難情報発令などの最新情報を更新している。 ②特記事項なし。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①地域防災計画に検討を加え、必要があると認めるときは改訂作業を実施する。 ②大規模な災害が起こると、市の準備だけでは対応しきれないこともあり、市民や企業との協力が必要となる。 有事の際に備え、自身や家庭、事業所で日常から準備をし、また、災害が発生した時には、家族はもとより地域の方々と連携して、初期消火、付近の高齢者などにも声を掛けあい避難をし、避難所運営に協力して助けあっていただきたい。	B継続
70	総合防災訓練(防災ふれあいひろば)	安全対策課	参加人数	28 29 30 元 2	1,052 1,965 0 1,871 0	人	①新型コロナウイルス感染症のため、総合防災訓練が中止となったが、それに代わる市民に向けた防災啓発事業等を実施した。 ②防災啓発を行うことにより、市民の防災意識が向上した。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の影響により、総合防災訓練が中止となったが、それに代わるシェイクアウト訓練等の市民に向けた防災啓発事業を実施する。 ②市民一人ひとりの防災意識、防災行動力の向上を図り、市民の生命、財産を災害から守り、安全で安心な生活を確保することを目的としているため、多くの市民に積極的に参加していただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 21)地域による防犯体制の構築と防犯意識の高揚										
71	パトロール体制の構築	安全対策課	自主防犯パトロール隊員数	28 29 30 元 1,316 2 1,356	1,387 1,297 1,318 1,316 1,356	人	①チラシ、市ホームページ等で自主防犯パトロール隊員を募集した。 ②随時、自主防犯パトロール隊への新規参加があった。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①自主防犯パトロール隊員の平均年齢が高いため、引き続き様々な媒体を活用して隊員を募集する。 ②地域の自主防犯パトロール隊に、積極的に参加していただきたい。	B継続
72	夜間防犯パトロール事業	安全対策課	通報件数	28 29 30 元 10 2 4	4 3 3 10 4	件	①青色回転灯付防犯パトロール車2台により、週5日間、1日7時間のパトロールを260日実施した。 ②警察への通報を4件、重点活動地域の指示を9件行った。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①令和2年の市内刑法犯認知件数は前年から減少し、事業の効果は向上しているが、今後も犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続して実施する。 ②自分でできる犯罪防止対策をとってもらうとともに、近隣の危険箇所等の情報を提供していただきたい。	B継続
73	防犯サテライト事業	安全対策課	実施回数	28 29 30 元 19 2 0	13 16 11 19 0	回	①新型コロナウイルス感染症の影響により、防犯サテライト事業を中心とした防犯啓発事業が実施できず、十分な啓発活動ができなかった。 ②特記事項なし。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①防犯サテライト事業は実施できない状況が続いているが、電話de詐欺の被害根絶に向けて、警察・防犯協会と連携し、啓発活動を実施する。 ②犯罪被害の防止のため、近所の高齢者への注意喚起や声掛けをしていただきたい。	B継続
74	児童生徒安全パトロール事業	学校教育課	不審者情報件数	28 29 30 元 29 2 64	61 58 62 29 64	件	①鎌ヶ谷市を4つのエリアに分け、児童生徒の下校時に、警備会社とシルバー人材センターによる車3台、徒歩3班でのパトロールを行った。 また、学校教育課での不審者情報等の連絡受け入れ体制を整えた。 ②不審者情報等の通報を受けた際に、巡回中のパトロール員へ直接情報提供し、現場周辺のパトロールをすぐに実施することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①地域の方々の見守り活動について情報共有を行い、市内全域で防犯活動の空白地帯ができないよう、見守りをさらに強化していく必要がある。 ②パトロール員だけでなく、かまがや83+運動などを通じ、地域全体で子どもたちを見守る意識を高めてもらいたい。	B継続
75	青色防犯パトロールカーの活用	学校教育課	不審者情報件数	28 29 30 元 29 2 64	61 58 62 29 64	件	①各小中学校区に青色回転灯付防犯パトロール車を配置し、教職員を中心に青色回転灯付防犯パトロール車による活動を行った。 また、学校への訪問等を児童生徒の登下校時間帯に合わせて青色回転灯付防犯パトロール車で行う、不審者情報のあった箇所の見守りを行うなど教育委員会でも積極的に活用した。 ②不審者情報があった箇所に対し、教職員と教育委員会の職員による見守りを行った。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①教職員の多忙化が問題視される中で、登下校時のパトロール実施は負担も大きくなっていくが、教育委員会も含め、児童生徒の見守りを積極的にやっていかなければならない。 ②不審者情報等があれば安全ネットワーク会議での情報共有や警察などへの情報提供等を通じて、地域全体で子どもたちを見守る意識を高めてもらいたい。	B継続
76	安全ネットワーク会議	学校教育課	不審者情報件数	28 29 30 元 29 2 64	61 58 62 29 64	件	①全中学校区が学校主催で開催し、通学路上の安全対策や防犯対策が必要な箇所、地域のボランティアの方の活動状況などを情報共有した。 鎌ヶ谷警察にも出席して頂き、交通・防犯両面で指導頂いた。 ②防犯面・交通安全面で注意・対策が必要な箇所が理解できた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①ネットワーク会議等での情報共有を通じて、市内で防犯活動の空白地帯が出ないようにしなければならない。 ②自治会等を通して、地域全体で子ども達を見守る意識を高めていただきたい。	B継続
主な取り組み 22)災害発生時の迅速な情報伝達、かまがや安心eメールの登録促進										
77	かまがや安心eメール	安全対策課	登録者数	28 29 30 元 9,256 2 9,902	7,117 7,927 8,434 9,256 9,902	人	①広報かまがや(毎号・年24回)に登録用QRコードを載せた。 ②令和元年度末に9,256人だった登録者が、令和2年度末には9,902人と646人増加した(防災配信5,975人・防犯配信3,927人※重複登録者あり)。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①かまがや安心eメールの登録者をさらに増やすため、PR活動を継続する。 ②地域においても安心eメールの登録をPRしていただきたい。	B継続
		青少年センター	メール配信数	28 29 30 元 24 2 14	24 30 30 24 14	件	①不審者、危険箇所等、その他子供の安全に関する情報の提供を行った。 ②令和元年度末5,505人だった登録者が、令和2年度末には5,610人と105人増加した。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①さらに登録者数を増やす。 ②かまがや安心eメールの積極的な活用をするため、登録者及び知人等への情報提供をお願いしたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策9 孤立化・虐待防止と権利擁護をすすめます										
主な取り組み 23) 児童虐待の防止										
78	児童虐待防止対策等地域協議会による関係機関の連携・情報交換	こども総合相談室	登録者実務者会議 個別支援者会議数	28 29 30 元 2	74 79 94 111 156	回	①実務者会議において要保護児童の情報共有、対応方針等について協議しているほか、関係機関でより連携が必要なケースについては、個別支援会議を実施した。 ②関係機関にて、支援の必要性や対応方針について共通認識を持つことにより、連携して迅速に対応することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①支援対象児童等の増加や児童虐待に係る問題が複雑化している状況において、限られた時間の中で、効果的な会議等の運営方法について、引き続き検討する必要がある。 ②虐待が疑われる家庭がある際は連絡をいただきたい。 また、支援が必要な家庭に対して、地域での見守りをお願いしたい。	B継続
79	養育支援訪問事業	こども総合相談室	訪問延件数	28 29 30 元 2	227 284 340 396 335	件	①妊娠中の不安の高さや子育ての不慣れさ、不安を抱えながら子育てをしている等、特に支援が必要な家庭に対して支援員が訪問し、養育に関する相談支援を行った。 ②妊娠中から産後早期における家庭をはじめ、乳幼児のいる家庭に対して支援員が訪問し、養育に関する相談支援を行った。 また孤立している家庭や養育の困難さがみられる家庭に対し育児負担の軽減を行うことで、虐待予防につなげた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①産後うつ等の養育者の体調面や育児への不安を抱える家庭も増加していることから、引き続き、支援が必要な家庭を早期に把握し、迅速な相談・支援などを実施するとともに、その家庭が地域から孤立しないよう、関係機関との連携が必要である。 ②地域の中で孤立している方や子育てに不安や悩みを抱えている方がいた場合には、連絡をお願いしたい。 また、支援が必要な家庭に対して、地域での見守りをお願いしたい。	B継続
主な取り組み 24) 乳幼児家庭の見守り活動										
80	乳児家庭全戸訪問事業	健康増進課	乳児全戸訪問率	28 29 30 元 2	91 96 98 96 96	%	①新生児訪問、保健推進員訪問、保健師訪問等にて乳児のいる家庭に全戸訪問を実施した。 また、訪問する職員の質の向上のため、乳幼児の救急救命講習等を実施するとともに、保健推進員活動の振り返りや活動満足度の評価を行った。 ②96%の乳児のいる家庭に訪問することができ、必要な人を早期に支援につなげることができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①事業の目的や重要性を理解し、必要な支援につなげられるよう保健推進員やそれを支援する保健師の資質の向上を図る。 ②必要な支援が受けられるよう、母子健康手帳発行時や出生票提出時等で紹介のあった、乳児家庭全戸訪問事業を利用していただきたい。	B継続
81	妊娠、出産及び育児期における養育支援家庭の早期把握	健康増進課	関係機関につなげた件数	28 29 30 元 2	40 44 45 47 31	件	①利用者支援事業(母子保健型)を継続し、保健師等による全数面接や、乳児健康相談・幼児健康診査等の母子保健事業を通して、支援が必要な家庭を把握し、必要な機関につなげた。また切れ目ない支援となるよう、必要な関係機関と連携し、支援を行った。 ②妊娠期から様々な母子保健事業を通して、切れ目ない支援を行うことができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①継続支援が必要な場合については、課内で情報共有をするとともに、関係機関と連携したケースについては、連絡会等を通し、継続してその後の支援の方向性を確認し支援を行う。 ②地域のボランティアや相談者へ各サービスや相談窓口を知ってもらい、必要な時に活用するとともに、他の市民にも利用できるよう伝えていく。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 25) 成年後見制度の周知と利用促進										
82	成年後見制度利用支援事業	障がい福祉課	申し立て件数	28 29 30 元 2	1 0 0 0 1	件	①成年後見開始等審判の申立て1件について、市長申し立てを行うことを決定した。 ②裁判所の審判があり、保佐が開始された。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①身寄りがない等で成年後見の申し立てを行えない方がいた場合、市長が成年後見の申し立てを引き続き行う。 ②身近に支援が必要な方がいた場合、関係機関に連絡等を行ってほしい。	B継続
		高齢者支援課	申し立て件数	28 29 30 元 2	5 4 7 6 14	件	①身寄りがない等で成年後見の申し立てを行えない方について、市長が成年後見の申し立てを行った。 ②12人に後見人が付き2人に補佐人がついた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①身寄りがない等で成年後見の申し立てを行えない方がいた場合、市長が成年後見の申し立てを引き続き行う。 ②身近に支援が必要な方がいた場合、関係機関に連絡等を行ってほしい。	B継続
		社会福祉協議会	相談会の開催	28 29 30 元 2	2 2 2 2	回	①司法書士の協力を得て、個別相談会を2回実施した。 ②7件の相談があった。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①今後も、成年後見制度利用の促進のために個別相談会を開催する。 ②特記事項なし。	B継続
相談件数	28 29 30 元 2		4 5 7 7	件						
83	成年後見制度の周知と活用	障がい福祉課	講演会の開催	28 29 30 元 2	1 0 0 0 0	回	①講演会は実施していない。 認定NPO法人東葛市民後見人の会を後援しており、同NPO法人が主催する成年後見制度の啓発及び普及活動のため行われる「鎌ヶ谷市後見相談サロン」の開催を広報に掲載し、周知を行った。 ②特記事項なし。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①引き続き周知を行っていく。 ②研修会、後援会等への積極的な参加。	B継続
			参加者数	28 29 30 元 2	122 0 0 0 0	人				
		高齢者支援課	研修会や講習会による周知	28 29 30 元 2	2 2 2 2 0	回	①新型コロナウイルス感染症の影響により研修会を開催できなかった。 ②特記事項なし。	D実施方法も含め改善が必要である	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めながら、安心して参加することが出来る研修会の開催を実施していく。 ②研修会に積極的に参加し、成年後見制度について理解を深めてほしい。	B継続
社会福祉協議会	講演会の開催	28 29 30 元 2	1 0 0 0 0	回	①パンフレットの配布等を行い制度の周知に努めた。 ②特記事項なし。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①パンフレットの配布等を行い制度の周知に努める。 ②特記事項なし。	B継続		
	参加者数	28 29 30 元 2	122 0 0 0 0	人						

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
主な取り組み 26) 市民や関係者等に対する啓発と市民後見人の育成										
84	市民後見人の育成	障がい福祉課	-	28 29 30 元 2	-	-	①市民後見人の育成については実施していない。 ②特記事項なし。	D実施方法も含め改善が必要である	(R3年度) ①今後、実施していくべきかを含めて検討が必要。 ②特記事項なし。	D廃止
	市民後見人の育成	高齢者支援課	参加人数	28 29 30 元 2	5 5 10 16 0	人	①新型コロナウイルス感染症の影響により研修会を開催できなかった。 特記事項なし。	D実施方法も含め改善が必要である	(R3年度) ①今後、実施していくべきかを含めて検討が必要。 ②特記事項なし。	B継続
	市民後見人の育成	社会福祉協議会	-	28 29 30 元 2	-	-	①市民後見人の育成については実施していない。 ②特記事項なし。	D実施方法も含め改善が必要である	(R3年度) ①今後、実施していくべきかを含めて検討が必要。 ②特記事項なし。	B継続
85	家族に対する支援	高齢者支援課	開催回数	28 29 30 元 2	22 25 25 29 4	回	①新型コロナウイルス感染症の影響により9月～12月までの実施となった。 中止期間は自宅で出来る体操や脳トレ等のパンフレットを郵送した。 ②介護の悩み・ご自身の体調のこと等を互いに相談し、リフレッシュする機会になっていた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点により事業を中止しているが、個別相談ができる日を周知している。 ②介護についての意見交換や情報の共有、リフレッシュができるので周知してほしい。	B継続
	家族に対する支援	社会福祉協議会	開催回数	28 29 30 元 2	12 12 11 13	回	①在宅で要介護状態の家族を介護している方のリフレッシュ事業と介護相談等を実施した。(新型コロナウイルス感染症の影響により3回のみの実施。) 郵送で体操や相談窓口等の情報提供、コロナ禍での生活についてのアンケート調査を実施した。 ②開催時にはコロナ禍での介護体験等の話し合いの時間も設けた。 また、互いの悩みを相談しあえる仲間作りの場となった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①介護中の家族にとって、コロナ禍でどのように開催していくかが課題。アンケート調査からコロナ禍でも開催を望む声もあったため、個別対応を検討する。 ②市関係機関協力により、コロナ禍での在宅介護に役立つ『在宅介護者のつどい』開催や情報提供を実施したい。	B継続
主な取り組み 27) 日常生活自立支援事業の充実と利用促進										
86	日常生活自立支援事業	社会福祉協議会	相談受付人数	28 29 30 元 2	24 16 24 17 24	人	①金銭管理に不安があり、成年後見制度を補完するサービスとして、利用者の意思決定に基づき、利用援助等を行った。 現在の利用契約者は、高齢者や精神障がいのある方で、生活困窮者の利用者が全体の約8割となっている。 ②13名の方の利用契約があった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①本事業の利用者は、横ばいであるので、広報紙「鎌ヶ谷社協だより」、ホームページ等で啓発に努める。 また、市役所、地域包括支援センター、基幹相談支援センター等の福祉関係の事業所への啓発にも併せて努める。 ②特記事項なし。	B継続
		社会福祉協議会	利用契約件数	28 29 30 元 2	10 9 12 11 13	人				
		社会福祉協議会	生活支援員	28 29 30 元 2	8 12 12 12 11	人				

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和2年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和2年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
基本目標4 地域福祉を支えるネットワークを推進します										
施策10 地域包括ケアシステムを推進します (新規)										
主な取り組み 28) 地域包括ケアシステムの確立に向けた連携体制の構築										
87	在宅医療・介護連携の推進	高齢者支援課	研究会や講演会の実施	28 29 30 元 2	11 10 25 26 19	回	①世話人と各部会で活動した。 ②世話人全体での会議は2回実施した。研修部会では研修を1回、WEBでの研修を実施した。広報部会ではポスターを作成した。認知症部会では認知症の早期発見のための「もっとぱっとスピード問診票」を作成し、専門職に周知できた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めながら研修会、部会を開催し連携体制の強化を図る。また、在宅医療を推進していくため医師会、連携室と協働し事業を実施していく。 ②地域の医療機関や介護施設で顔の見える関係づくりを積極的に行ってほしい。	B継続
88	認知症施策の推進	高齢者支援課	会議開催回数	28 29 30 元 2	12 15 16 20 16	回	①認知症相談事業での月1回の勉強会を実施した。また、認知症地域支援推進員による認知症施策についての会議を4回実施した。 ②事業内容の検討を行い、新規事業を実施することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①認知症関連事業への地域での協力者の育成、活動支援が必要。 ②認知症の人やその家族が住みやすくなるよう、認知症を理解し偏見なく見守ってほしい。	B継続
89	生活支援サービスの推進	高齢者支援課	開催回数	28 29 30 元 2	2 4 15 20 9	回	①コロナ禍で定期的な協議体の実施はできなかったが、少人数での打ち合わせを実施した。 ②各生活圏域で協議体に向けての情報の共有ができた。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①第2層協議体を6生活圏域で実施していく。 ②地域の人に一緒に取り組めるよう周知してほしい。	B継続
90	地域の医療資源の把握	健康増進課	医療機関数	28 29 30 元 2	120 120 261 261 258	件	①検索方法を見直し、特にスマートフォンからの検索をしやすいものとした。また、診療科目の見直しを行った。 ②すべての医療機関、歯科医療機関情報の更新を行うことができた。	A順調に進んでいる	(R3年度) ①随時情報を更新する。 ②かかりつけ医を持つことをお願いしたい。	B継続
主な取り組み 29) 高齢者の生活支援や介護予防支援										
91	介護予防・生活支援サービス事業	高齢者支援課	会議開催回数	28 29 30 元 2	2 4 15 20 9	回	①コロナ禍で協議体の開催が十分にできなかった。 ②コロナ禍ではあったが、高齢者へ地域での見守り活動に取り組むことができた。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①地域課題において総合事業につなげられるか検討していく。 ②活動についての成果を周知してほしい。	B継続
92	一般介護予防事業	高齢者支援課	参加人数	28 29 30 元 2	68 144 169 186 143	人	①運動、栄養、口腔の複合プログラムによる運動教室(ちよ筋教室:コロナのため全8回、2クール開催)や、関節の痛み等があり、悩んでいる方向けの柔道整復師による運動教室(柔体操:コロナのため全12回、10か所1クール開催)を実施した。 ②講座前後に実施する体力測定において、初回と最終回では結果に改善がみられた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	(R3年度) ①ちよ筋教室において他職種(PT、ST)との連携を図り、充実した講座内容になるよう検討していく。 ②講座終了後も、地域住民が気軽に集まって体操を実施できる場所の提供をお願いしたい。	B継続
93	新しい介護予防・日常生活支援総合事業	高齢者支援課	参加事業所数	28 29 30 元 2	20 38 59 61 61	か所	①生活支援サービス事業を実施した。 ②10人の利用実績があった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	(R3年度) ①通所型サービスについて実施を検討していく。 ②見守り等地域での担い手となる活動をお願いしたい。	B継続